

令和4年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

5年

教科	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
国語	<p>○登場人物の関係を押さえて心情を把握するなど、読むことの到達度に差がある。 (到達度30%～95%)</p> <p>○文章の内容と資料の情報を関係付けて正しく読み取り、記述することに課題が見られる。 (到達度40～90%)</p>	<p>○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをノートなどにまとめる機会を多く設定する。</p> <p>○意見交換の機会を多く設定し、話す経験がたくさんできるようにする。</p> <p>○文章を要約したり、字数や様式などの条件がある書く活動を行ったりする。</p> <p>○友達とお互いの文章を読み合い、互いの言葉の使い方や表現の仕方に着目して良さを見付ける活動を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く」では、自分の考えを文章で分かりやすく表現することが苦手である。 ・「読む」では、情景描写に着目して、表現の効果を捉えることが難しい。
社会	<p>○社会生活についての総合的な理解を図るための基礎的・基本的な知識が定着していない。</p> <p>○統計的資料から社会的事象を読み取る経験が少ない。</p> <p>以上2点から、知識・技能の到達度に差があると考えられる。(到達度47%～98%)</p>	<p>○語句だけの暗記にならないよう、写真・絵図・動画・地図帳や地球儀等の諸資料と関連付けるとともに、既習事項について新単元の内容と関連付けながら繰り返し取り上げ、知識の定着を図るようにする。</p> <p>○統計的資料の読み取りを丁寧に行い、児童の気付きを友達同士で説明し合ったり、読み取った事柄から学習問題を設定したりするなど、資料を十分に活用して社会的な見方・考え方を育むようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能については、概ね80%以上の到達度であるが、実生活との関りを考えたり、自分の考えを書いたりする場面では手が止まってしまう児童多い。

理科	<p>○自然の事物・現象の変化とそれに関わる要因を関係付けて説明することに課題が見られ、思考・判断・表現の到達度では、上位層が少ない。 (全体の20%強)</p>	<p>○自然の事物・現象から問題を見だし、既習の内容や生活経験を基にして根拠のある予想や仮説を発想する活動を十分に行う。また、見いだした問題を解決したり、仮説を確かめたりするための方法を十分に検討させる。</p> <p>○観察や実験の結果の考察を丁寧に行う。その際に、考察の視点を全体で確認したり、説明に必要な用語や語句を板書して明示したりするなど、児童一人一人が自力で表現できるように支援する。また、考察したことを全体で検討し、問題解決の活動を振り返ることで、理科の見方・考え方を育むようにする。</p>	<p>・知識・技能については、概ね80%以上の到達度であるが、実生活から予想したり、関連付けて考えたりする児童が少ない。</p>
体育	<p>○体育の学習を楽しみにしている児童が多いが、それぞれの運動における、自己の課題を捉え、その解決に向けて思考し、判断する姿はあまり見られない。</p>	<p>○学習カードや ICT 機器を活用して自らの学習活動を振り返り、課題を修正したり、新たに設定したりして次の学びにつなげることができるようにする。</p> <p>○「する」「知る」「見る」「支える」など様々な視点から運動に親しむことができるように指導をしていく。</p>	<p>・体育の学習を楽しみにしている児童が多いが、それぞれの運動における、自己の課題を捉え、その解決に向けて思考し、判断する姿はあまり見られない。</p>
学習の総合的な時間	<p>○課題解決のための資料の取捨選択や情報の整理を適切に行うことが難しい。 (全体の20%)</p>	<p>○収集した情報を、何を視点に取捨選択するか指導する。</p> <p>○自らが何に疑問をもち、課題を設定したのか立ち返る場面を設け、解決に向けての学習の進め方の見通しを再確認させる。</p>	<p>・学習姿勢が受動的になる児童が多く見られ、テーマについて、さらに探求したいという児童が少ない。</p>